

久留米大学を受診した患者さんへ

「当院における小児下部消化管内視鏡検査の現状に関する調査研究」の研究に使用する情報について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の情報を使用します。

- 1) 期間：2007（平成19）年1月から2015（平成27）年2月
- 2) 受診科：消化器病センター または 複数科にわたるもの
- 3) 対象疾患名：小児における大腸内視鏡検査の適応疾患
- 4) 使用する情報：診療情報

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門
 研究代表者：助教 吉岡慎一郎
 研究分担者：助教 竹田津英稔
 教授 光山 慶一
 教授 鳥村 拓司

2) 研究の意義と目的：

現在大腸内視鏡検査は内視鏡機器と検査技術の進歩に伴い、乳幼児に対して出血、下痢、体重減少、腹痛、原因不明の鉄欠乏性貧血などの原因精査及び治療に用いられるようになりました。特に近年増加している炎症性腸疾患（IBD）およびポリポーシス症候群などの腸疾患の診断として、子供ならびに成人において重要であり、特に小児患者における全大腸内視鏡検査を実行することがますます必要になってきています。

しかしながら日本で小児大腸内視鏡検査に置ける前処置の方法は、施設間で独自の基準で行われており、標準化されたものではありません。そこで今回診療情報を用いて当院における小児下部消化管内視鏡検査の現状に関する調査研究を行いたいと思います。

3) 研究の方法：

内視鏡検査マネジメントシステム「Solemio END」に記録された全ての過去データより、0歳から15歳までの大腸内視鏡検査被検者をリストアップします。その後全大腸内視鏡検査を行った患者さんを選定し、対象となる患者さんの背景及び検査詳細について Solemio 及び電子カルテを用いて検索、解析を行います。

4) 研究期間：

平成28年2月倫理委員会承認後～平成30年12月31日

5) 上記の情報の使用を選定した理由：

診療情報を用いて 1) 患者の臨床的特徴、2) 前処置 3) 鎮静 4) 内視鏡機器 5) 内視鏡診断 について解析、検討を行うためです。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：

この調査から得られる情報は、プライバシー保護のため、個人が特定できないような単なる数字の情報に変換して厳重に管理いたします。調査の結果を公表する場合にも、個人名が出ることは絶対にありません。

7) 研究成果の発表の方法：国内および国際学会や学術論文において発表を行います。

8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

〒830-0011

福岡県久留米市旭町67番地

久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門医局内

助教 吉岡慎一郎

TEL 0942-31-7561 PHS 11719